



旅するテディベア

連載 第5回 真冬の中国の旅 The Dandelion Press Bear 外間 宏政

中国を旅するのなら冬の中国と、どこか心の中で漠然と決めていたような気がしていた。あの大陸が、歴史が、寒気団の中に閉じ込められて密封されている中国への旅だ。

旅のスタートは東北瀋陽から始まった。日本では長春で馴染みの都市だ。-20℃の瀋陽は、シーンと張り詰めたスノードームの雪を降りおろすスタートを待つ瞬間の緊張感に思えた。文化遺産が数多く残る清朝発祥の地瀋陽から、シルクロードの玄関として栄えた敦煌へと向かう。

莫高窟は、仏教芸術の宝庫だ。シルクロード最大の名所、砂漠のオアシスを舞台に続けられた謎。ひとつひとつの石窟は扉で閉ざされて保護されている。見学の許された石窟の扉が開いて光が差し

込むと、瞬間に壁画が浮き出た。時代を溯り、落雷にあたったように我を忘れた。守ること、残すこと、伝えることの大切さを実感した。それから西安へ。古代帝国の栄華を残す古都。城壁の内外は数えきれない名勝古跡がある。近代化の波は街の心中の鐘楼を行き交う車の多さと排気ガスにかすんだ街並、やたら巨大なマクドナルド。昔ながらの夜店の楽しさ。楊貴妃の恋物語。秦の始皇帝兵馬俑の圧巻。そのミュージアムショップには最初に発掘したお爺さんがいてサインと記念写真を売りにしていた。2200年の眠りは、ほんの33年前に起きた偶然から世界を驚かせニュースになった。最終地北京へ。オリンピックの準備に街はごった返していた。陶芸家の知人の工房を訪ね、中国茶をフルコースでいただく。中国では急須を育てると表現する。急須との出会いとそれを慈しみ育てる



ことが、お茶の国中国人のステイタスだ。美味しい餃子を食べ、骨董屋巡り三昧で故宮さえ素通りになってしまった。

①シルクロード。ゴビ砂漠の美しい砂の稜線をバックに埋もれそう。／②瀋陽は寒すぎて空気そのものが凍っている。人影もまばらな瀋陽故宮、たたずむ人は吐く息でまつげも、まゆげも凍っていた。／③ラクダに乗って砂漠をお散歩。／④意を決して乗ったラクダ、落ちないように必死だった。砂の上に雪、そして砂また雪、まるで冬の砂漠はミルフィーユのようだ。／⑤グラスに注いだお湯の中で中国茶の綺麗な花が咲いた。／⑥アンティークの刺繍、襟や袖ベッドの飾り、そして纏足(てんそく)用の靴。／⑦玉門関(ぎょくもんかん)はかつての西域への玄関口(前漢武帝時代)、敦煌から北西100キロにある。／⑧敦煌で食べた鍋。中国には時差がなく、お天道様と時計の時間差が妙に朝食なのか夕食なのか不思議だ。敦煌の名物はロバの肉らしい。／⑨北京の骨董モールで記念写真。これは骨董では無い気がする。／⑩敦煌、砂漠のオアシス月牙泉に立

つ月泉園の門番のお爺さんの部屋で入れてもらったお茶。生活感のあるお爺さんのプライベートなカフェだ。／⑪敦煌で唯一清潔で気持の良い美味しいラーメン屋。お金のやり取りに専用のお箸を使っていた。／⑫北京で今流行りのレストラン。中国全土の麺の技がまるでショータイムのようで華々しくショーアップされていた。／⑬どこまでも続く地平線に夕陽が落ち思わず走り出した雪の中。

今回は、旅先で出会った不思議な友だちを紹介します。

プロフィール
The Dandelion Press Bear 外間宏政(ほかまひろまさ)
1996年ファーストベア制作
たんぼほの綿毛に乗って世界中にテディベアの心が広がりますように。
ホームページアドレス ● <http://tdpb-hokama-h.com>

PRESENT 魚の瑪瑙の指輪を1名様に。
(詳しくはP.58のTeddy Topicsをご覧ください。)